

『北海道の魅力とは』

フリーキャスター 菅井 貴子 (すがい・たかこ)



略歴:横浜市出身。明治大学理工学部数学科卒業。フリーキャスター、気象予報士、防災士、ファイナンシャル・プランナー(CFP)。首都圏をはじめ全国の放送局で、司会やレポートなどを勤める。2005年からは北海道に移住し、現在はNHK「おはよう北海道」などに出演中。講演、コラム執筆なども行うとともに、気象経済などの分野も研究活動中。また小中学校へ環境出前授業や昨年出版した『なるほど！北海道のお天気』(北海道新聞社)の印税の一部を北海道と環境に関する事業に寄付されるなど社会貢献活動にもご尽力。

北海道は、気候から見ても魅力があふれています。アメダス地点の年平均気温を調べると、最も低いのが、上士幌町で3.5度。高い地点は、松前町で10.2度。その気温差は、東北〜九州に相当です。気温から見る北海道は、実際の面積以上に広い大地です。

さらに北海道の季節は、別々の地域から始まると思いませんか。道内で春が始まる地は、どこでしょう。一足早く気温が上がるのは道南。桜前線も、函館、松前、江差周辺に上陸です。夏は、オホーツク海側からやってきます。大抵、5月になると道内トップを切って夏日(気温25度以上)を観測するのは、北見市周辺です。年によっては、桜が咲く前に真夏日(30度以上)を観測することもあります。秋の始まりは道北から。北から南下する秋雨前線は、涼しい空気も運んできます。冬は…山からもやってくるでしょうか。旭岳の初冠雪は、9月24日が平年日です。

なお、春はどこから?の答えに、皆様お住まいの地を答えても正解です。念のため。(春の定義は、それぞれです)

北海道は、山が暑さを形成し、性質の違う3つの海が、町ごとの天気を別ものにします。栽培される作物からも、地域特性が表れているようです。昼夜の寒暖差が大きい盆地では、メロンやスイカ、果樹栽培。夏も冷涼な地域は、酪農。乳牛に27度以上の気温は、負担がかかります。雪の多い地域は、凍害対策ができます。ぶどうの木はななめに植え、雪の布団をかぶせることで、マイナス3度以下にはなりません。

最近、道産米にも注目が集まりますが、もともと、稲は、インドが原産。外国人観光客は、北海道で米がとれることに驚くそうです。実際、稲作は、5月〜9月の平均気温を積算して2,500以上の温度が必要と言われています。寒さに弱い稲には、「凶作は東風から」のこともありますが、北海道にとっての東風は、冷たいオホーツク海から吹く風です。ただ、上川や空知地方にとって東にそびえる大雪山系の山は、東風をブロックし、夏の低温の影響を受けにくい場所です。米どころの所以です。

また、雪氷熱エネルギー利用も、北海道だからこそ。実は需要は、雪よりも夏の暑さに存在します。北海道より多雪の国や地域はたくさんありますが、雪を活かそうという発想になりません。それは、夏も涼しいから。冷房や、食品の冷蔵の必要がほとんどないからです。雪が降り、さらに夏の高温が、知恵も生むようです。

食・エネルギー・水・観光も、北海道の豊かな気候がベースです。気候は、「北海道の生まれつきの恩恵」。それを道民自身が活かし、さらにプラスアルファの付加価値で一層の経済効果も期待できそうです。

まずは、私に何ができるでしょう。気候を活かすには、天気予報の精度も上げる必要がありますね。天気に左右されやすい農業や漁業、酪農などへ、的中率の高い情報を提供する一方、問い合わせが多い年3回も、慎重に。大型連休・年末年始の帰省ラッシュ・子どもの運動会。この時期の予報を外すと「天気予報は当たらない!」のイメージで、信頼が薄くなっても大変です。北海道の気象予報士は、日本一難しい地で、日本一責任も大きいですが、それだけやりがいのある地です。

最後に、北海道の魅力とは?数学科専攻の理屈っぽい私が、理論ぬきで証明します。それは、私自身が、「北海道が好き」という理由だけで単身移住をしてきたことです。北海道を活性化できる歯車のひとつになりたいといつも思います。

「北海道の天気で、北海道がもっと元気になりますように。」